

種 名 イヌビエ  
万葉時代の呼名 ひえ・稗



詠人 柿本人麿歌集 万葉集卷十一 二四七六

打つ田には稗は数多にありといへど  
擇らえしわれそ夜をひとり寝る

### 【現代訳】

水田にたくさんある中から運悪く抜き取られたヒエのように、わたしも捨てられてしまいました。ひとり寝はさびしいものです。

### 【イヌビエの解説】

イネ科ヒエ属の一年草

栽培される「ヒエ」に似ているけれど食用にならないということで、「イヌビエ」という。草丈は60cm～1.2m。花期は8月～10月。花序は10cm～25cm。

イヌビエは非常に形態の変異が大きく、いくつかの変種が認められている。やや大型で芒が長いタイプは「ケイヌビエ」という。また、葉の縁が厚くなって白い筋が入るタイプは「タイヌビエ」。全体に小型で小穂に芒のないタイプは「ヒメイヌビエ」。しかし、これらの区別はなかなか難しいところで、区別する分類形質も少々不明確なところもある。